

# 在職者訓練の受講者増の試み

## ～建築業界における事業主団体との連携について～

九州職業能力開発大学校 谷畑 伸一郎

### 1. はじめに

九州職業能力開発大学校（以下、九州能開大という）の居住系の能力開発セミナー（以下、セミナーという）の実施率は、施設内において低調な位置にある。しかし、九州能開大居住系は、施工管理に関するセミナーニーズが高いという特徴を持ち、その要因としては事業主団体と連携した取り組みが背景にある。本稿では団体ニーズ把握、日程調整、レディ・オーダーメイドコースの振り分けなどの取り組みについて報告する。

### 2. 建設業界について

建築業界における職種は、川上側の設計（意匠・構造・設備）と川下側の施工・施工管理に大別できる。ここでは就業人口の多い川下側の施工・施工管理について述べる。

#### 2.1 業務の体制

居住系セミナーが対象としている建築業界は、製造業と異なる特徴が受注生産（一品生産）であることである。建築主がいて、設計者、施工管理者、施工技能者、工事監理者といった多くの企業・職種により構成され、特に施工現場においては重層下請構造により成り立つプロジェクトである。

物件ごと（一棟ごと）に施工され、同じ建物は二つと存在しない。地盤が異なれば地耐力も異なり構造は異なり、前面道路など敷地環境が異なれば重機

の設置位置により施工法も異なるからである。さらに、施工する上では、天候の影響（雨・風・気温）が直結し、安全対策・品質維持の観点で現場を停止させることもある。近隣への配慮（音・振動対策）も必要であり、配慮したうえでも近隣からのクレーム対応にも追われることもある。

勤務体制は、近隣対策だけでなく働き方改革も加わり、日・祝日の休暇はかなり定着してきたが、それでも現場の不測の事態により職種によっては休日であっても現場を動かすこともある。したがって、建設業は他業種よりも現場環境に左右される要素が強く、つまり不測の対応要素が多いといえる。

人材育成の観点ではセミナー受講を予定していても現場状況によっては急なキャンセルの理由の一つもここにある。「そもそも数か月先のセミナー時に現場がどういう状況なのかがわからないのだから企業とすれば受講させられるかのめどがつかない」と評されたこともある。

#### 2.2 業界ニーズ

建設業界は、資格社会といわれる。施工管理側・専門工事業者ともに資格の有無により担当できる仕事の範囲・規模は異なる。主な資格は以下の通りである。

- ・施工管理者：施工管理技士、建築士など
- ・専門工事業：作業主任者資格・技能講習資格などの主に安全系資格

これらはセミナーニーズ調査で顕著に表れる（資格対策セミナーが求められる）。

当居住系では、民間研修機関との競合を避けた技術セミナーを企画している。

### 3. 居住系セミナー分野

主に、セミナー受講者の対象職種は、以下となる。

- ・設計：意匠，構造
- ・施工：技能系，施工計画・施工管理

また，職業能力開発総合大学校基盤整備センターの分野における検索ワードでは，以下の5つに大別される。

- ・建築施工
- ・建築構造
- ・建築計画
- ・建築設備
- ・関連

九州能開大居住系では，建築計画・建築構造・建築施工を企画している。

### 4. 北九州市における居住系事業主団体

筆者が九州能開大居住系へ着任して驚いたのが，企画されているセミナー分野の中心が施工管理であることと，コースによっては定員を超える応募があるということである。これまでの建築生産の川下側となる施工・施工管理では受講生が集まりにくいという認識が覆った感があった。

このように，施工管理セミナーのニーズの高い理由は，九州能開大居住系と地場の事業主団体との関係性が強いこととのちに知った。代表的な事業主団体は，以下の通りである。

- ・名称：一般社団法人 北九州市建設業協会
- ・住所：福岡県北九州市小倉北区
- ・会員数（企業数）：148

本協会は，建設業における施工・施工管理を担う会員（企業）で構成されている。当校の居住系学生は，企業委託実習（インターンシップ）でお世話になり，就職先でもお世話になっている。就職に関しては，特に建築の冬の時代といわれ建設会社の倒産・廃業が相次ぎ新規雇用の厳しかった2000年代でさえも当校の学生を採用いただいた実績がある。

そして，企業の人材育成には当校のセミナーを

活用する関係性である。実際に，会員企業からは，「OJTは企業内で実施するが，Off-JTはポリテクカレッジに期待したい」との声もいただいている。また，企業の行うリクルート活動においても「社員研修はポリテクカレッジで行う」とプレゼンテーションされている。従来，協会からのオーダーメイドセミナーも実施していた時期もあった。協会事務局においても会員企業へのセミナー広報だけでなく応募の集約もしていただいている。

居住系では，協会だけでなく会員企業とも顔のつながらる関係である。ここまでの関係性は，居住系歴代の諸先輩方が長きに渡って築き上げたものであろう。

### 5. 新たな居住系事業主団体

九州能開大居住系セミナーは，地場の事業主団体に支えてもらいながらも年間計画数の実施には届いていない。セミナー内容の品質向上を図りながらも広報の充実・改善を模索している。

ある時，企業から来校いただいた。北九州市建設業協会の会員企業である社長である。用件は，「福岡県建設業協会（\*）」の機関誌「ひとまちふくおか」の企業紹介記事「活躍する若者たち」に当校居住系修了生が記載される旨の報告であった。

（\*）福岡県建設業協会

- ・名称：一般社団法人 福岡県建設業協会（一般社団法人全国建設業協会を構成する都道府県建設業協会の一つ）
- ・住所：福岡県福岡市博多区

改めて名刺を確認すると北九州市建設業協会ではない組織名である「福岡県建設業協会北九州市支部長」とあり，程なく福岡県建設業協会との接点を見いだすことができた。

これを縁に，福岡県建設業協会への紹介を依頼し，専務理事へつないでいただいた。後日訪問し，当校業務（学卒者訓練・在職者訓練）を説明するとともに，学生の企業委託実習・会員企業への就職について依頼し，会員企業宛てのセミナー広報の許可を得た。

併せて、福岡県建設業協会の機関誌の学校紹介（福岡県内の建設業に関連する科を有する工業高校・専門学校・短大・大学）への掲載依頼を受け、取材を経て図1の通り協会機関誌<sup>1)</sup>への掲載機会を得ることができた。



図1 機関誌掲載記事

## 6. 今後の展開

### 6.1 事業主団体活用に向けた進捗（北九州市）

北九州市建設業協会の会員企業は建設業として建築業と土木業に分けられ、どちらも担う企業もある。令和4年度の段階で建築業を持つ企業を紹介いただいた。これまで無作為に広報対象としていたが今後は、絞り込んで広報（郵送・個別訪問）したい。

徐々に、建築を担う企業のリストが進んでおり、これまでのセミナー受講実績を仕分けしているところである。これに加えて企業委託実習・学生の採用実績も仕分けすることで訪問重点企業・新規開拓企業のように企業・機構ともに効果的な活動につなげていきたい。

### 6.2 事業主団体活用に向けて（福岡県）

福岡県建設業協会について。前述の通り、福岡県建設業協会への広報許可は得ることができたが、タイミング的には令和4年度末時点での行動であったことから令和5年度セミナーへの応募はまだまだ少ない。本格的な広報活動は令和5年度がスタートとなる。

北九州市建設業協会と異なり、福岡県全域に存する企業構成である。令和5年度4月のセミナーに久留米市内の企業からの受講があった。受講者に聞くと通うには厳しいとのこととで宿泊を伴う受講であるとのことであった。ニーズのあるセミナーであれば施設間連携として、施設の枠を超えて指導員側が訪れての実施も可能ではないか、3施設で同一コースを実施することも可能ではないか。

どの施設でもセミナーニーズに対応できる要素を持つ指導員がいない・異動により引き継ぎ者がいない、の問題はある。これも解消できるのではないか。

広報自体も、3施設で地域分けすることで効率よく訪問することもできるのではない。セミナーだけでなく、訓練生・学生の就職先開拓の訪問とすればさらに効率は上がるのではないか。

### 6.3 福岡県内施設の居住系として（体系図）

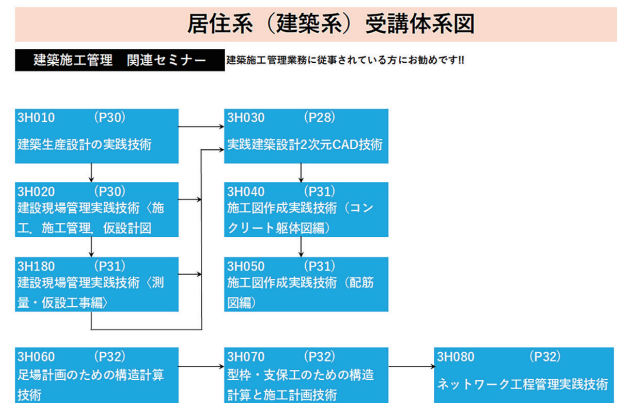


図2 セミナー体系図（抜粋）

九州能開大セミナーパンフには各系のセミナー体系図（図2）を別刷りにて配布先により使い分けながら挟み込んでいる。受講側から見ると体系図はセミナーをどの順番で受けるかと段階的に習得できるかが一目して判別できる長所がある。しかし、セミ

ナー実施側からすると、これまで単発（指導員が異なることによる）だったセミナーを体系化するには、日程を時系列で計画する必要性と何よりもより多くのコース数が必要であることを痛感する。

さて、九州ブロックでは、広域用セミナーパンフを北部・南部の2地域にて作成している。福岡県内施設としては、北部地域版（福岡、佐賀、長崎、大分）が該当する。

また、福岡県内の機構3施設として、居住系を持つのは以下の通りである。

- ・福岡職業能力開発促進センター
- ・飯塚職業能力開発促進センター
- ・九州能開大

この3施設居住系におけるセミナーの体系化を提案したい。単発だったセミナーも数が集まれば迫力あるセミナー体系図となり、集客に対する課題解決の一助になるのではないかと。

ただし、問題点もある。

それぞれの施設では、主となるのは離職者訓練・学卒者訓練である。セミナーは重要ではあるものの柱となる訓練業務が優先（教室・実習場・指導員）された中でセミナーの日程計画が進むことになる。よって、セミナー体系が時系列とならないこともあり得る。

さらには、セミナーコースの施設間競合も生じる。

## 7. おわりに

九州能開大居住系では、ここ数年で建設業界向けのセミナー企画を大幅に変更してきた。

### (1) オーダーメイドコースとレディメイドコース

以下の3コースである。日程的にはオーダーメイド依頼元の意向により土・日を除いて連続させている。

- ① 建築生産設計の実践技術
- ② 建設現場管理実践技術（施工・施工管理・仮設計画図編）
- ③ 建設現場管理実践技術（測量・仮設工事編）

以下、直近5年間の経緯である。

- ・令和2年度まで：事業主団体向け（北九州市建設業協会）のオーダーメイドコース（15名定員×3コース×3日間）：年度により定員を超える・未充足があった。定員に満たない場合は、会員企業ではない企業に広報し定員を充足させた。
- ・令和3年度：新型コロナウイルス感染の影響によりは中止となった。この間に協会外企業からのセミナー依頼の声を多く受けた。
- ・令和4年度：オーダーメイド・レディメイド（3コース×3日間×2回）の開催とした。前年度のセミナー中止を踏まえて2回に分けての企画であったが分けることによる共倒れ（定員割れ）のリスクは覚悟した。定員を大幅に超えるコースもあったが、やはり偏りは生じた。問題点として、教室の確保・指導員の確保により学生の授業を大幅に変更することで対応を図ったがやはり混乱は生じた。
- ・令和5年度：レディメイドコースのみとした。定員は前年度のオーダーメイド・レディメイドを統合した形（30名定員×3コース×3日間×1回）で定員は2倍・指導員数も2倍を企画した（図3）。ただし、これまでの信頼関係のある従来のオーダーメイドコースの対象企業を優先させることとした。結果は、3コースの応募は順に23名・24名・15名であった。居住系セミナーとしては多い感はあるものの数値的には定員割れである。

なお、受講者は（修了者とも）は順に16名・21名・12名とさらに下がる。原因は直前キャンセルである。キャンセルの理由は、前述した建設業にありがちな現場の状況変化が原因のようである。



図3 セミナー風景

## (2) 施工系の新規セミナー

これまでに施工系セミナーは以下の要素を企画してきた。

- ・建築積算
- ・ネットワーク工程管理
- ・施工図（タイル割）
- ・施工図（コンクリート躯体図）
- ・施工図（配筋図）

年度により実施したコース・中止したコースに分かれる。とはいえ、翌年度には実施・中止コースが逆転することもあり、企画すべきかを迷うところである。基本的には中止コースの再企画は行わないものの、まれに再企画すると受講者が集まることもあり、やはり読めない。

以下の2つは年度によるが比較的安定して受講者は集まる。

- ・施工図（コンクリート躯体図）
- ・施工図（配筋図）

令和5年度は新たに構造計算（強度計算）として、足場と型枠支保工を企画している。

## (3) セミナーの実施曜日

建設業の定休日は、傾向として以下が多い。

- ・住宅系：水曜日
- ・ゼネコン系：日・祝日，土・日・祝日

例えば、ゼネコン系の企業をターゲットとするなら現場の動かない土日の企画が望ましいと思いきや土曜日は現場が動く可能性も高い。

現場の動かない休日開催の要望を以前は多く聞いたが、昨今の働き方改革の影響からか、休日はやはり休みとし、勤務日に研修としてセミナーを受講したいとの声が増えてきた感がある。

## (4) 広報活動

建設業全般からのニーズは資格系であり、技術系のセミナーの受講が増えてきたのはごく最近だと感じる。従来は、「人材育成は自己啓発でやるもの」の声が多かったが、今は企業の持つ人材育成の考え方が進んできたのではないか。当校居住系の先輩指導員からセミナー広報時に人事等の研修担当者向け

への啓発活動が必要だと教わった。「学んだものは企業に還元される」の意識を持ってもらうことである。われわれ指導員もそれに応えられるスキルを身につけなくてはならない。

新たな事業主団体との付き合いが始まったが、より地域に根差して会員企業の人材育成、訓練生・学生の就職に向けたマッチングに貢献したい。さらには、全国にある建設業協会との関係強化により全国の居住系セミナーの実績向上を願う。

### <参考文献>

- 1) 一般社団法人 福岡県建設業協会「ひとまちふくおか」2022年3月号NO.45)